

3 管内のぶどう栽培の概要について

(1) 育苗用ハウス等を活用したシャインマスカットの生産

- ・ 近年、人気のあるシャインマスカットは、丸森町不動尊地区で5人が平成25年から栽培に取り組み、農産物直売所で販売が好評で、品切りで生産者から直接購入するお客様が多いです。
- ・ 村田町の農産物直売所の生産者3人や丸森町大内地区において10人が育苗ハウスを活用したシャインマスカットの栽培を新たに始めています。
- ・ 角田市でも新規就農予定者を含め2人が取り組んでいます。

(2) ワイナリーとの連携による醸造用ぶどうの生産

- ・ 地元産ぶどうを活用したワイン生産が広がる中、管内では平成30年に仙台市秋保のワイナリーから県内産の醸造用ぶどうを使用したいとの要望を受け、管内で醸造用ぶどうの栽培が開始されました。
- ・ 令和2年には、村田町の2法人が県補助事業を活用し植栽するなど栽培面積は5.4haとなりました。
- ・ また、七ヶ宿町ではぶどう栽培を核にした新規就農者がいることから、町とともに支援を行っています。

表 管内の醸造用ぶどうの栽培面積と主な品種

市町	栽培面積	主な品種	備考
蔵王町	1.6ha	シャルドネ（白）ほか	
七ヶ宿町	0.6ha	シャルドネ（白）、ピノ・ノワール（赤）ほか	
村田町	2.5ha	アルモノワール（赤）、ビジュノワール（赤）	
川崎町	1.5ha	20品種以上	

3 ぶどうの仕立て

(1) シャインマスカット

「新技術を導入した「シャインマスカット」栽培マニュアル」を参照にしてください。

(2) 醸造用ぶどう

○ 垣根仕立て長梢せん定（ギヨ）

・ 1年目の管理

1年目は、発芽後、生育のよいい新梢を1芽残してかき取る。新梢は生育に応じて、順次支線に誘引します(図1)。

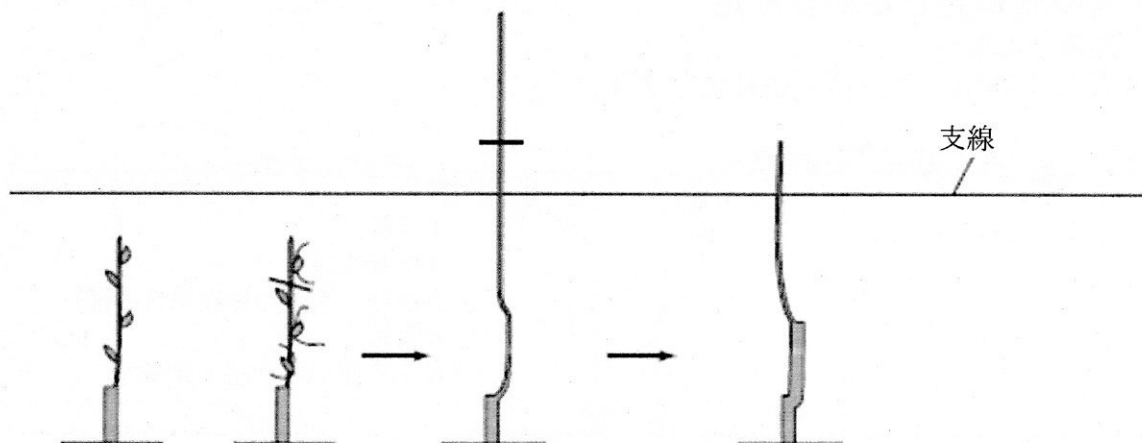


図1 垣根仕立て1年目の管理

・ 2年目の管理

2年目は最下段の支線（0.6～0.8m）下の10cmほどに発生した登熟のよい結果母枝を2本残します。支線に沿って左右に開いて水平に誘引します。誘引した結果母枝は、隣接樹との中間点でせん定します。結果母枝は誘引で折れやすいので、可能であれば剪定時に3本残し、樹液流動が始まり、枝が柔軟になる時期に2本の結果母枝の誘引を行ないます（図2）。とくに‘カベルネ・ソーヴィニヨン’や‘甲州’は誘引時に枝が折れやすいので、注意が必要です。

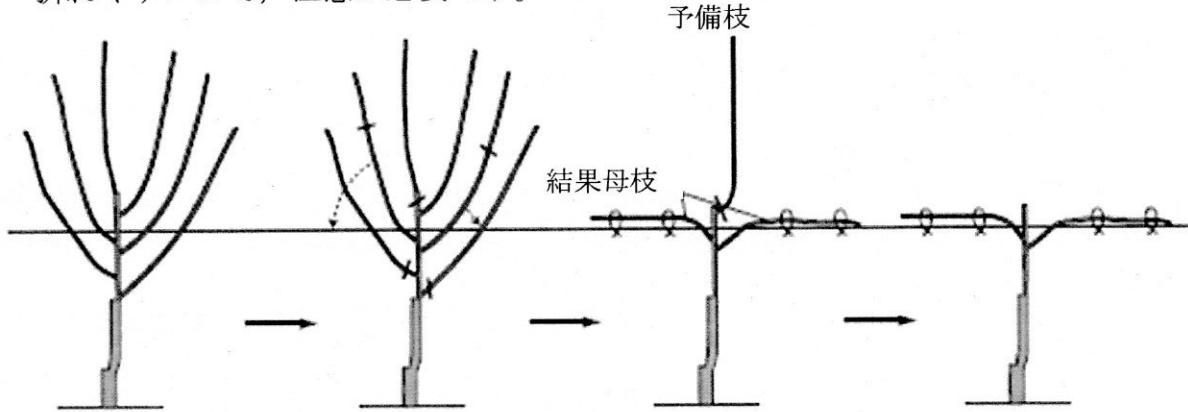


図2 垣根仕立て 2年目の管理

・ 3年目以降の管理

3年目から成園に向けたせん定です。主幹部に近い4本の結果母枝を残し、うち2本を長梢で両側に配置する。主枝の間延びを防ぐため、残す結果母枝よりも内側に短梢を配置して、翌年の結果母枝候補とします（図3）。

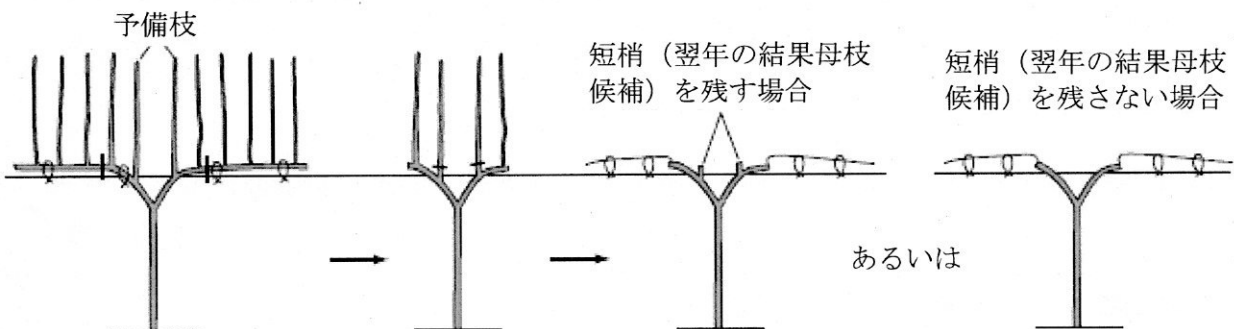


図3 垣根仕立て 3年目の管理

○ 長梢せん定と短梢せん定

・ 長梢せん定

1年枝を誘引して、結果母枝にします。

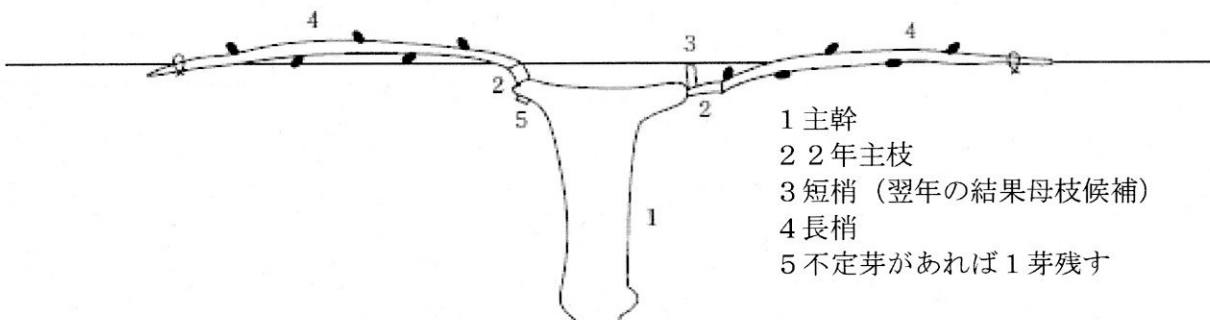


図4 長梢せん定（ギョ）

・ 短梢せん定

側枝から発生した前年の結果枝は、1~2芽残して、せん定します。

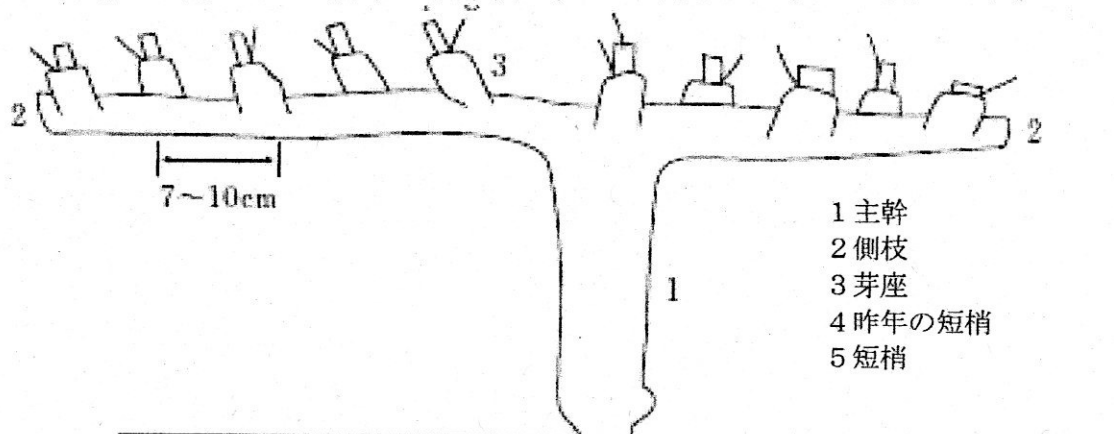
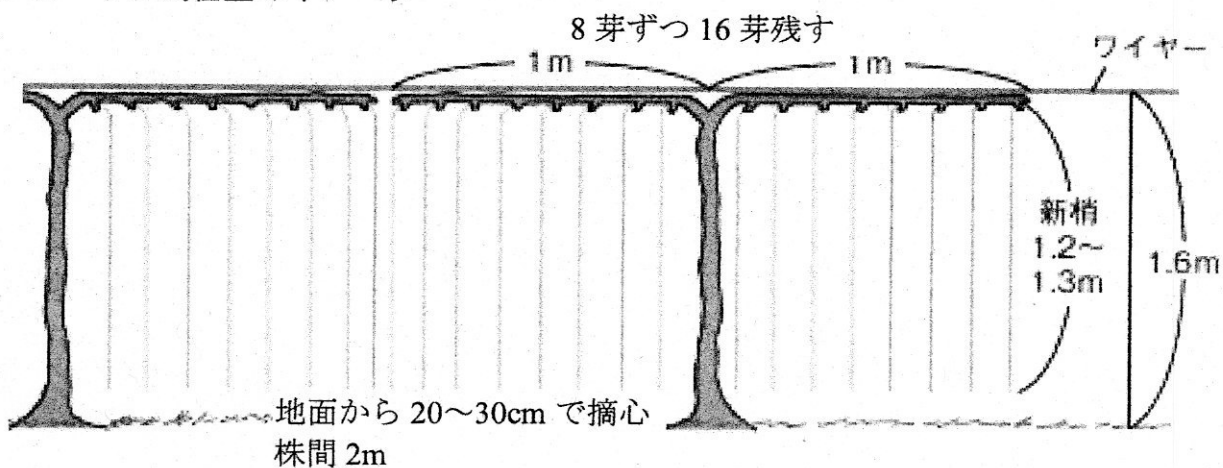


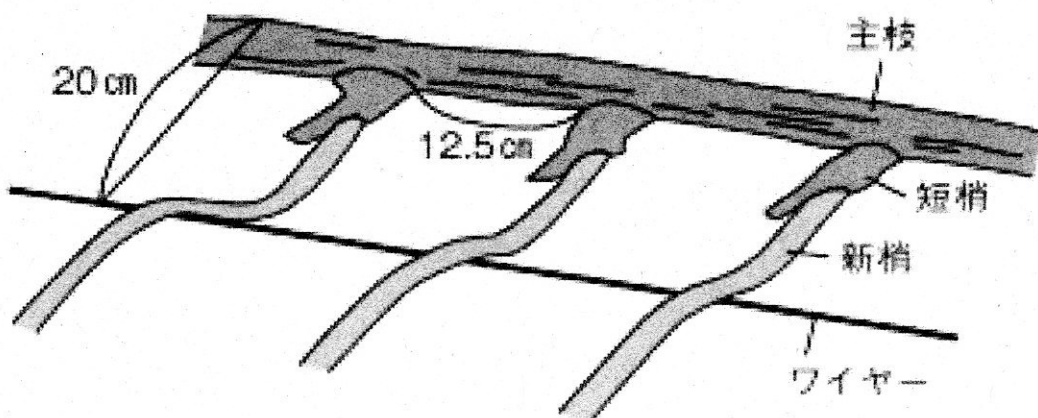
図5 短梢せん定 (コルドン)

※ 農業技術大系より

○ カーテン式仕立のイメージ



1.6mまで伸ばした主幹から、ワイヤーに沿って主枝を2本とします。短梢せん定で2芽残し、巻きづるが伸び始めた6月上旬に主枝を回転させて新梢を下に向けます。



主枝を沿わせているワイヤーから20cmのところ、もう1本ワイヤーを張ります。新梢はそのワイヤーまで横にはわせてから下に垂らすと折れにくいです。